

せせらぎ



令和2年12月10日発行 No.8

今回は、6年生の理科の様子をお伝えします。実験用てこが水平につき合うには、どの位置におもりを吊り下げればよいか、前の時間に行いました。子供たちは、水平につき合わせるために、友達と協力しながら吊り下げる位置（目盛りの数）とおもりの重さを調べました。そして今日は、実験用てこが水平につき合う時には、どんな決まりがあるのか各自で予想を立てた後、実験用てこを使って確かめました。果たして、どんな決まりを見つけたことができたのか・・・？

校内研究授業 12/8 (火)
6年理科「てこのはたらき」
指導者

ねらい「実験用てこのうでが水平につき合う時のきまりについて、予想を立て実験し、自分なりに表現することができる。」

実験用てこ

左:目盛り3×20g 右:目盛り12×30g



つかむ

1. 「めあて」をもとう
2. 「見通し」をもとう



実験用てこの復習: キーワード
「左のうで」「右のうで」「目盛りの数」「おもりの重さ」などの言葉を確認し、めあてを立てました。

めあて

「実験用てこが水平につき合う時、どんな決まりがあるだろうか。」

追究する・深める

3. 自分で解いてみよう
4. ともだちと相談しよう
5. みんなで話し合おう



実験用てこを使って、予想が正しいかどうか実験しました。



まとめる

6. 「まとめ」をしよう
7. 問題を解いてみよう
8. 「ふりかえり」をしよう



実験結果から考えたことを発表し、全体でつり合う時の決まりについて話し合いました。

まとめ

「目盛りの数×おもりの重さの積が同じになる時に、てこが水平につき合うという決まりがある。」

児童は、実験用てこが水平につき合う時は、左右のうでで、「目盛りの数×おもりの重さ」の答えが同じになっている時につき合うということ、実験を通して理解することができました。

授業研究会では、「子供たちは、実験用てこを使いながら、予想が正しいか友達と確認することができていた。実験器具も2人に1台くらい準備されていて一人ひとり出来て良かった。」という意見が出されていました。